

## 26日 木曜

### ネヘミヤ

12:22 エルヤシブ、エホヤダ、ヨハナン、ヤドアの時代にレビ人は一族のかしらとして登録され、また、祭司はペルシア人ダレイオスの治世に登録された。

12:23 レビの子孫で一族のかしらたちは、エルヤシブの子ヨハナンの時代まで、年代記に記されていた。

12:24 レビ人のかしらたちは、ハシャブヤ、シェレベヤ、およびカデミエルの子ヨシュアであり、その兄弟たちが彼らの向かい側に立って、組と組が相応じて、神の人ダビデの命令に基づき、賛美をして感謝をささげた。

12:25 マタンヤ、バクブクヤ、オバデヤ、メシュラム、タルモン、アクブは門衛で、門の倉を見張っていた。

12:26 以上はエホツァダクの子ヨシュアの子エホヤキムの時代と、総督ネヘミヤ、および学者である祭司エズラの時代の人々である。

12:27 エルサレムの城壁の奉献式に際して、彼らはあらゆる場所からレビ人を捜し出してエルサレムに連れて来た。シンバルと琴と豎琴に合わせて感謝の歌を歌い、喜びをもって奉献式を行うためであった。

12:28 歌い手たちは、エルサレムの周辺の低地やネトファ人の村々から、

12:29 またベテ・ギルガルやゲバとアズマウェテの農地から集まって来た。この歌い手たちは、エルサレムの周辺に自分たちの村々を建てていたのである。

12:30 祭司とレビ人は自分たちの身をきよめ、また民と門と城壁をきよめた。

祭司やレビ人のことが書かれています。どちらも礼拝の重要な役目を担う人々です。祭司はイエス様



のあがないのひな型である、ささげものなどを司り、レビ人は律法や賛美などの働きをします。

イスラエルは他国から守られることや、農業が豊かであることを求めましたが、このように信仰の面でも働き人が必要でした。なぜならそれらの守りと豊かさを与えてくださるのは神様であり、その神様への信仰こそが何よりも重要だからです。

その信仰を守ることこそ、豊かさや安心の要です。私たちも同じです。主の働き人を尊重しましょう。また自分自身も働き人となりましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

